令和５年度

事 業 報 告 書

自：令和　５年　４月　１日
至：令和　６年　３月３１日

宮城県仙台市泉区上谷刈字向原３番地の 30

社会福祉法人　やまとみらい福祉会
理事長　早坂　了悦

本部 事業実績報告

社会福祉法人やまとみらい福祉会は、法人開設より 13 期を終えた。社会福祉を標榜する法人として、地域の福祉ニーズに応えるべく果敢に挑戦を繰り返しているが、何より利用者、家族、職員、地域にとって望まれるサービスや支援、法人の在り方を常に念頭に置き、事業実施に努めてきた。

令和 5 年度は、既存事業の収益性を含めた事業推進体制の再評価、人事評価制度の推進、業務基準書の運用等、職員定着に注力した。

また、感染が拡大していた新型コロナウイルスについては、各事業所長を中心にリスクを想定した迅速な対応、行政等からの情報収集、事業所間での情報共有等に奔走し、感染拡大の防止に努めた。

いずれの事業も、地域に望まれ、そのニーズに即した事業を今後も継続していく。人材の確保、育成、定着等の諸課題や、感染症、災害等の影響も懸念されるが、あらゆるリスクを想定し、堅実で着実な歩みを進めていく。

[社会福祉法人やまとみらい福祉会運営事業]
令和 5 年度に実施した運営事業は以下のとおり

・第 1 種社会福祉事業
　特別養護老人ホーム抱優館八乙女(長期入所事業)
　地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東(長期入所事業)
・第 2 種社会福祉事業
　特別養護老人ホーム抱優館八乙女((介護予防)短期入所生活介護事業)
　地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東((介護予防)短期入所生活介護事業)
　ヘルパーステーション東雲(老人居宅介護等事業)
　ホームヘルパーステーション東雲(居宅介護事業／障害者)
　やまとみらい八乙女保育園(小規模保育事業)
　やまとみらい南光台東保育園(認可保育園)
　オルタ八乙女(障害福祉サービス／自立訓練、就労移行支援、就労定着支援)
　ワインフォレスト七ツ森(障害福祉サービス／就労継続支援（A型・B型)
・公益事業
　ケアプランセンター抱優(居宅介護支援事業)
　ケアプランセンター東雲(居宅介護支援事業)
　サービス付き高齢者向け住宅東雲（サービス付き高齢者向け住宅）
・収益事業
　不動産賃貸業
　太陽光発電による売電事業

［各種外部研修・行政等主催研修参加状況］

日時	研修名	参加者	主催
R5.10.17	「経営に活かす」会計セミナー	本部職員	一般社団法人 宮城県中小企業診断協会
R5.10.18	介護助手導入講座	本部職員	宮城県
R6.2.27	令和５年度「人材確保対策研修」	本部職員	人材確保対策委員会研修会
R6.3.15	社会福祉法人事務担当者研修	本部職員	宮城県社会福祉協議会

特別養護老人ホーム抱優館八乙女 事業実績報告

令和 5 年度は基本に立ち返り、重点目標にもある法令等の遵守を基本方針として業務執行に努めた。年度前半は、サービス種類ごとに定められた事業運営基準を基に、ケアの実際について現状との差異を確認し、令和 5 年度より運用を始めた業務基準書を踏まえながら、評価及び改善を行った。年度後半は、ケアの評価、改善を行いつつ、環境の整備を中心とした業務執行に努めた。コロナ禍もあり、ここ数年は外部の方の目が入っていなかったが、客観的な視点に立ち整備を行うことで、入居者様にとって快適な居住環境を提供できるようになり、職員にとっても動線や物品位置が整えられたことで、業務の効率化や安全性の向上につながった。

入居者様の安全確保、とりわけ感染症及び食中毒等については、食中毒及びインフルエンザの罹患者はゼロだった。新型コロナウイルスについては、複数回に渡り職員や入居者様の感染が確認されており、発生の都度、感染拡大防止体制の確立、介護業務・ケアの簡素化の実施、スムーズな職員応援体制の確立等により早期に収束するよう努めた。

嘱託医による入居者様の健康管理体制に加え、看取り対応も支障なく行われ、令和 5 年度に施設を退所された方は 22 名、うち看取り介護同意の方は 12 名であった。認知症の入居者様に対する精神科医による月 2 回の診察・指導に加え、歯科医指導による口腔ケアの取組みも継続して行っている。

長期の平均稼働率は目標の 95%に対し、92.3%であった。長期入所については、待機者の確保と入居に至るまでのスピード感が課題となっている。

ショートステイは目標の 90%に対し、87.0%であった。ショートステイについては、前年度の利用数を下回っており、リピーター獲得に向けた取組、空床利用の活用、困難事例の受入れ体制の構築が課題となっている。

令和 5 年度利用実績

[特別養護老人ホーム抱優館八乙女利用実績] 全 80 室

平均入居者 73.8 名 稼働率 92.3%

月	平均利用者数	稼働率	月	平均利用者数	稼働率
4 月	74.2 名	92.8%	10 月	74.6 名	93.3%
5 月	76.8 名	96.0%	11 月	72.8 名	91.0%
6 月	77.0 名	96.3%	12 月	72.5 名	90.6%
7 月	73.9 名	92.4%	1 月	73.4 名	91.7%
8 月	74.6 名	93.3%	2 月	70.1 名	87.6%
9 月	74.0 名	92.5%	3 月	72.0 名	90.0%

[(介護予防)短期入所生活介護抱優館八乙女利用実績] 全 20 室

平均月延べ利用者数 530.6 名 稼働率 87.0%

月	延べ利用者数	稼働率	月	延べ利用者数	稼働率
4 月	511名	85.2%	10 月	512 名	82.6%
5 月	533名	86.0%	11 月	485 名	80.8%
6 月	477名	79.5%	12 月	501 名	80.8%
7 月	548 名	88.4%	1 月	594 名	95.8%
8 月	571名	92.1%	2 月	577 名	99.5%
9 月	491 名	81.8%	3 月	567 名	91.5%

抱優館八乙女各種委員会活動報告

●リスクマネジメント委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第２火曜日）

【本年度の取り組み】

・開催ごとに先月の事故・ひやりハット・誤薬事故の振り返りを実施

・法定研修

第１回「裁判事例から学ぶ介護リスクマネジメント」７月実施

第2回「危険予知訓練・薬の基本情報・服薬マニュアルの確認」１月実施

【振り返り】

ひやりハットを活用し事故防止につなげていくことを目標に掲げ、振り返りと共に重要性の確認を行った。また、各ユニットへ周知し、職員にひやりハットの正しい記録を習慣づけることができた。

第１回研修では、動画視聴により実際の裁判事例から介護リスクマネジメントを学んだ。第2回研修では、危険予知訓練をグループワークで行うことで、他の職員の意見を取り入れ情報を共有することを学び、現場でのひやりハットに気付くきっかけとなった。また、服薬マニュアルの読み合わせを行い、保管場所・確認する時間・空袋の廃棄するタイミング等の確認を行った。

●感染症予防対策委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、総務職員

【開催実績】

計１２回（毎月第２木曜日）

【本年度の取り組み】

・感染症発生時の対応と実践

・職員の体調管理に関する意見交換の実施

・法定研修

第１回「食中毒予防研修」　５月実施

第2回「福祉施設における感染対策（講話とガウンテクニックの実践）」１１月実施

【振り返り】

今年度はコロナ５類に移行に伴い、面会方法を一部緩和した。また、入居者にコロナ感染があったが、大きく広がることはなく収束した。

法定研修やケアラウンドを通した意見交換により、換気、手指消毒等を忘れずに行う意識が定着し、職員に咳や喉の違和感があった際は自ら抗原検査を行うなど、感染対策が各自で徹底できるようになった。

●身体拘束廃止・ケア向上委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第３木曜日）

【本年度の取り組み】

・不適切ケア、グレーゾーンに関する事例検討の実施

・法定研修

第1回研修「身体拘束廃止・ケア向上研修」６月実施

第2回研修「身体拘束廃止・ケア向上研修」12月実施

【振り返り】

目標の一つである「身体拘束ゼロに努める」は達成することができた。今後も多角的な視点で機能できるよう継続していく。他方、もう一つの目標である「声掛けは具体性を持たせて工夫する」については、職員によって意識に差がみられた。

法定研修では、グループワークを行うことで色々な意見を交換できた。自分や他の職員が行っている支援について「これは大丈夫なのか？」と考え意識することの重要性を、委員会や研修を通して全職員に発信した。

●虐待防止委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第４火曜日）

【本年度の取り組み】

・虐待要因となる職員のストレス状況の把握と今後の法定研修の議題を探ることを目的とした全職員対象のアンケートの実施

・法定研修

第1回　「適切なケアについて」８月実施

第2回　「グループワークによる事例検討」３月実施

【振り返り】

職員アンケートを実施し、虐待に至る原因を探るとともに、コミュニケーションの向上と風通しの良い職場環境を形成し、職員全体で適切なケアを実施するための検討を行った。

様々な要因が重なり法定研修の参加率が低く、当初計画していた形のグループワークが行えなかったため、次年度は参加率向上を目指し開催方法を検討する。また、毎月開催する中で、議題がどうしても枯渇してしまっており、実のある話し合いとならなかった場合もあったため、次年度の課題としたい。

●栄養管理委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、日清医療食品栄養士

【開催実績】

計１２回（毎月第４木曜日）

【本年度の取り組み】

・毎月の行事食の立案と実施および反省

・衛生管理、入居者様への手洗いの励行指導とユニットの清掃状況のチェック及び周知

・嗜好調査実施とその結果の検討、利用者様からの声のフィードバック

・窒息事故について（状況の説明、事故防止の取り組み等）

【振り返り】

ユニットの人員不足やコロナ感染により、少ない人数で開催することが多かった。その中で可能な限り行事食や特色あるメニューを増やし施設内で楽しめる食事を提案できたことは良かった点である。

喫食者の手洗い状況にも踏み込み、提案、助言を年度後半に強化してきたが、まだ不十分である。ユニットになぜ流し台が２つあるのかの意味も含め、入居者利用者様の手洗いについて考える必要があり、感染対策委員会とも共通認識を持ち取り組むべき課題であった。

また、トロミ剤や栄養補助食品の検討を今年度行いたかったが、感染のタイミングもありなかなか着手できなかったため、引き続き次年度に持ち越し検討を行いたい。

●排泄・褥瘡予防委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、支援員、看護師、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第３火曜日）

【本年度の取り組み】

・ユニ・チャーム様の協力による、基本的な排泄ケア研修、ポジショニング研修

・排泄、褥瘡ケアについてのスキルアップ、排泄パターンの見直しへの取り組み

【振り返り】

排泄ケアについて、知識の再確認とユニット内での課題解決を繰り返し、委員会内で共有を行った。また、支援のレベルアップを目標に、写真を用いてポジショニング時のクッションや注意点の共有を図った。その結果、統一した支援提供へつなげることができている。

技術に関しては個々の意識向上と技術のレベルアップが必要となる。検討の結果、次年度は、排泄ケアについて今以上に考え取り組める職員の育成を目指し排泄マスター研修の導入が決まった。

排泄用品の選定や尿測、陰部洗浄の技術・実践に関しては課題が多く、費用も考えつつ、要介護者の皮膚状態、体形、水分の摂取量、排尿量を総合的な視点からさらに考え、必要なケアができる環境へ少しずつ整えていく。

●行事企画・広報委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、支援員、総務職員

【開催実績】

計１２回（毎月第１木曜日）

【本年度の取り組み】

・とくし丸による移動スーパー（6 月）　七夕飾り（7 月）　納涼祭（8 月）　敬老会（9月）

クリスマス行事、餅つき（12月）　ひな祭りおやつブュッフェ（3 月）

・ニュースレターの発行（9 月、3 月）

【振り返り】

コロナの影響も少なく事故等もなく、無事行事を行うことができた。コロナ対策を講じたうえでの企画・開催であったため簡素化した行事もあったが、内容を充実させ入居者様に喜んでいただくことができた。

また、各ユニットやフロア単位で、外出の機会を増やし外出支援を行った他、季節を感じられる雰囲気づくりに取り組んだ。

●防災対策・安全衛生委員会報告書

【構成メンバー】

施設長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、支援員、総務職員

【開催実績】

計１２回（毎月第１火曜日）

【本年度の取り組み】

・緊急連絡網訓練の実施（5 月）

・避難訓練（自主訓練）の実施（3月）

・施設内の 4S チェックの実施（2ヵ月に１度）

【振り返り】

緊急連絡網訓練については、問題なくスムーズに行うことができた。

避難訓練については、本来なら年に２回の実施であるが、コロナ感染の影響により１回のみの実施となった。その内容についても、委員長が火災時の夜勤者の対応について動きを示し説明を行う形の簡素化した訓練で終了している。来年度以降は年に２回（消防立ち合い・自主）実施し、職員が動きを実践できるようにしたい。

また、今年度は炊き出し訓練を実施することができなかったため、次年度以降、年１回は継続的に行えるよう計画していきたい。

[各種外部研修・行政等主催研修参加状況]

日時	研修名	参加者	主催
R5.6.1	実務者研修	介護員	日建学院
R5.6.23	令和５年度 泉区管内給食施設従事者研修会	管理栄養士	仙台市保健所
R5.7.5	宮城県介護職員合同入職式	介護員	宮城県介護人材確保協議会
R5.7.14	令和５年度 宮城県社会福祉職員「コミュニケーション技術・対人援助技術研修（基礎）」	事務員	宮城県社会福祉協議会
R5.8.7	介護報酬改定対応研修～介護施設・事業所における虐待防止及び身体拘束等の適正化について～	介護支援係長	公益財団法人全国老人福祉施設協議会
R5.8.31	第１回 職員研修	介護員	仙台市老人福祉施設協議会
R5.9.26	令和５年度 社会福祉施設新任職員研修	介護員	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
R5.9.28	論理的文章力育成研修 ～業務の質と効率を上げる～	事務員	日本漢字能力検定協会
R5.9.29	令和５年度「合同研修会」	生活相談員	仙台市社会福祉施設協議会
R5.10.4	要介護（要支援）認定調査に係る介護認定調査員現任研修会	介護支援専門員	宮城県健康福祉局介護保険課
R5.11.17	令和５年度 施設ケアマネジャー研修会	介護支援専門員	仙台市老人福祉士施設協議会
R6.1.31	令和５年度 給食施設事例発表研修会	管理栄養士	仙台市保健所
R6.2.11	令和５年度 アセスメント研修会	介護支援専門員	宮城県ケアマネジャー協会

内部研修報告

開催日	研修名	内容
4/1～11	新入職員研修	ビジネスマナー、就業規則、食中毒予防、認知症ケア、身体拘束について、高齢者の疾患、感染症対策、ユニットケアの考え方、リスクマネジメントについて等
5/11、17	感染症予防対策研修①	食中毒予防、衛生管理
6/7、15、21	身体拘束廃止研修①	身体拘束廃止に向けての取り組み
7/11 (他、動画にて)	リスクマネジメント研修①	裁判事例から学ぶリスクマネジメント
7/12、19	救命救急講習会	人型模型を使用した救命救急
8/7、14、21	虐待防止・ケア向上研修①	虐待の定義5つの確認、不適切ケアについて
10/25	看取り研修	施設での看取りとは
11/15 (他、ワークシート)	感染予防対策研修②	福祉施設における感染対策
12/6、13、21	身体拘束廃止研修②	スピーチロック等事例検討
1/19、22、26	リスクマネジメント研修②	薬の基本情報、危険予知訓練
3/11、18、25、 4/22	虐待防止・ケア向上研修②	支援における職員のストレス、感情コントロールについて

地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東 事業実績報告

令和５年度は、年間を通じた安定運営を基本方針として業務執行に努めた。令和４年度末に中核を担う介護職員が離職したことに伴い、派遣職員などを活用し体制維持に努めてきたが、昨今の人材不足のあおりを受け、直接雇用の職員の獲得に苦慮し、 年度を通じて派遣職員の比率が高い状態が続いた。

感染症及び食中毒等については、食中毒及びインフルエンザの罹患者はゼロだった。新型コロナウイルスについては、職員の感染は確認されていたが、基本的な感染予防策の徹底、行動歴の把握などを実施し利用者の罹患者はゼロであった。

より質の高い食事を提供するため、調理業務を自営化し ２ 期目を終えた。一人ひとりの状態に合わせた食形態での提供を行い、安全と健康に気遣ったバランスの取れた美味しい食事を継続して提供できている。昨今の食材料費の高騰についても、価格が大きく変動する物については都度代替品で提供し、コストの安定を図った。

長期の平均稼働率は目標の 95%に対し、92.4%であった。逝去された方、入院者も多かった年であり、年末には 90%を割り込んでいたが、空床利用を上手く活用し、ショートステイでの目標 90%に対し、104.0%と、施設全体としての稼働率維持に努めた。

令和５年度利用実績

[地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東利用実績] 全29室

平均入居者 26.8 名 稼働率 92.4%

月	平均利用者数	稼働率	月	平均利用者数	稼働率
４月	28.0 名	96.6%	10 月	26.4 名	91.2%
５月	27.8 名	95.7%	11 月	26.0 名	89.7%
６月	28.0 名	96.6%	12 月	25.7 名	88.5%
７月	27.0 名	93.1%	１月	25.6 名	88.3%
８月	27.1 名	93.4%	２月	26.3 名	90.8%
９月	27.0 名	93.1%	３月	26.7 名	92.1%

[（介護予防）短期入所生活介護抱優館南光台東利用実績] 全10 室

平均月延べ利用者数 317.4 名 稼働率 104.2%

月	延べ利用者数	稼働率	月	延べ利用者数	稼働率
４月	306 名	102.0%	10 月	277 名	89.3%
５月	307 名	99.0%	11 月	344 名	114.6%
６月	290 名	96.7%	12 月	348 名	112.2%
７月	301 名	97.1%	１月	326 名	105.1%
８月	310 名	100.0%	２月	343 名	118.3%
９月	295 名	98.3%	３月	363 名	117.1%

抱優館南光台東各種委員会活動報告

●リスクマネジメント委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第３木曜日）

【本年度の取り組み】

・ 事故報告書作成の手順・再発防止策の効果の周知、情報の共有
・ 離床センサー設定状況、ユニット内テーブル、椅子の定期点検の実施
・ ヒヤリハットの共有、車椅子の点検のアナウンス
・ 入浴機器のメンテナンス依頼
・ 事故件数、ヒヤリハット件数の集計と事故報告内容の共有、予防策の検討
・ 法定研修

第１回「介護場面でのリスク 基礎知識」

第2回「介護場面でのリスクマネジメント 危険予知トレーニング」

【振り返り】

年度当初から軽微な内出血に関する取扱いについて議論がなされ、今後は軽微なものも含めて全て事故として報告することになったこともあり、事故報告件数は前年度の 94 件を大きく上回り 248 件となった。大きな事故の発生は少なかったが、転倒による恥骨骨折の事故と飲み物をこぼされた入居者が熱傷する事故があった。全体の統計によると軽微なものも含めて内出血、表皮剥離、切創などの外傷事故が 53.2%、車椅子やベッド等からのずり落ち・転落の事故が 13.7%、移動時の転倒・しりもちの事故が 9.3%の順で大きな割合を占めたが、投薬支援に関する誤薬、飲ませ忘れ、落薬発見の事故についても 9.3%と多くなっており、発生を防ぐことができる事故が多くあったことは今後の課題と言える。ヒヤリハット報告については、年間で56件と報告件数が多いとは言えないため、もっと多角的な視点で職員全員が危険を予知し、対策、共有が図れる意識づくりが必要と思われる。

事故報告と併用して皮膚トラブル報告書を記載し、内出血がいつできたものなのか、その後の経過はどうなったか等の確認、共有を図ることとしていたが、皮膚トラブル報告書の活用が定着せず、業務も煩雑になってしまうとの理由から、今後は皮膚トラブル報告書の活用はしないこととなった。

入居者も職員も安楽に介助が行えるよう、特に移乗支援時においては、適宜スライドボードやスライドシートを職員それぞれが適切に使用できるよう、引き続き使用方法の確認、周知が必要と思われる。

日常的に使用しているテーブル、椅子、車椅子、入浴機器の点検については、実施時期に確実に実施できる体制づくりが不足していた状況があったため改善していきたい。

施設内法定研修については、昨年同様に動画視聴型の研修システム（イーケアラボ）を活用し実施した。

●感染予防対策委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員

【開催実績】

４、７、１０、１月（第２火曜日）

【本年度の取り組み】

・新型コロナウイルス５類移行に伴う感染対策の見直し

・正面玄関入口、職員通用口に非接触型体温計を設置

・洗浄ボトル、吸引ボトルの消毒法の変更とマニュアルの改正

・感染ラウンドチェック表の作成

・感染用物品倉庫、感染発症時に着替え等が出来るスペースの確保

・埃や浮遊菌からの汚染防止目的でリネン類の保管方法の見直し

・法定研修

第１回「食中毒予防研修」６月実施

第2回「高齢者施設での感染対策（外部講師：サラヤ様）」１１月実施

【振り返り】

新型コロナウイルス５類移行に伴い、面会方法の見直しについて毎回検討を重ねてきたが、変更は次年度に持ち越しとなったため、次年度早々に直接対面での面会実施を目標としたい。

今年度は新型コロナ74 名、インフルエンザ３名の感染者が出現したが、いずれも職員のみで、入居者、利用者の感染発症者が0名だったため、水際対策がしっかりと成されている証明と思われる。次年度も継続出来るよう感染対策の啓蒙に努めたいと考える。

●身体拘束・虐待防止・ケア向上委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員

【開催実績】

４、７、１０、１月（第３火曜日）

【本年度の取り組み】

・集団指導の資料、運営指導マニュアルの確認と情報共有

・R6 年度制度改定に伴う、委員会の進め方、研修のあり方についての検討

・法定研修

第１回「認知症 応用 対応力の強化を考える」５月実施

第2回「実践 認知症ケア 考えてみようケーススタディ」２月実施

【振り返り】

研修に関しては予定していた時期から少し遅れたが規程の回数で実施することができた他、ユニット職員発案の研修も行うことができた。研修担当になった職員にとっても学びの機会になったと思われる。

身体拘束廃止の取り組みとして「グレーゾーンに該当する行為」に対する事例検討がほとんどできなかったため、次年度は委員会の中で各ユニット、職種から気になる行為、状況の聞き取りを行い、委員会で検討し、ユニットミーティングでも議論できるようにフィードバックしていきたい。

●栄養管理委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第４水曜日）

【本年度の取り組み】

・毎月の行事食立案、実施、反省、行事委員会との連携でのイベント開催

春のお花見お弁当、ラーメンの日、母の日、父の日、土用の丑の日、麦とろの日、天ざるイベント（七夕）、精進料理、夏祭り、敬老祝い膳、芋煮会（サンマの炭火焼き）、冬至南瓜、クリスマスイベント、年越しそば、おせち料理、餅の提供、七草粥、節分、バレンタインデー、ひな祭り

・盛り付け方法、衛生管理（配膳時間、食事提供時間）、食中毒関連についての周知

・夏場の水分補給強化について

・使用食材についての検討、ソフト食を充実させるための取り組み

・食事箋の見直し

・トロミ剤の検討、見直し（使用量の増加、価格高騰を受け、使用量の少ない商品で検討）

【振り返り】

厨房を直営化し２年目となり、直営ならではの食材の使用や新規献立の導入、また、ソフト食へ力を入れ日々の献立内容を充実させるため取り組んだ。ソフト食の形状は前年度と比較し安定してきているが、さらに良い物を提供できるよう今後も日々検討を行っていきたい。また、季節の食材などを活用し、マンネリ化しないようバラエティに富んだ食事内容の作成に取り組んだ。

ユニットの衛生管理、温度管理面で指導が行き届かなく不安な面が多々あったため、次年度は改善に向け具体的な目標を掲げながら取り組んでいく。

食材の高騰が続く中、いかに安価に献立内容を充実させるかが課題となった。今後も利用者様の目線に立ち、日々の楽しみの一つとして感じて頂けるような給食の提供を目指す。

●排泄・褥瘡予防委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員

【開催実績】

計１２回（毎月第４木曜日）

【本年度の取り組み】

・ユニチャーム様のアドバイスを元に尿量測定の徹底によるパッド使用方法の見直し

・陰部洗浄の見直し・・リハビリパンツ使用の方が出来ていなかったため、ウォシュレット で洗浄統一。

・皮膚状態の報告とパッドの使用状況報告・・保湿の徹底

・褥瘡の予防・・初期の報告⇒対策（クッションの使用・体位変換・処置）

・ブレーデンスケールの個別の評価により、褥瘡発生高リスク者を把握

・排泄ケア研修 「パッドの特徴と正しい当て方」 ５月実施

【振り返り】

使用パッドのサイズについて、適切ではなかったという結果があったが、ユニット職員自らが積極的に尿量測定を行い使用パッドを見直し、その結果月約３万円ほど減額することができた。一方、新しい職員や夜勤専従の職員については、パッドの種類や使い方の把握が不十分で、使用した物が違っていた場合もあり、反省が残った。

褥瘡発生については２名あった。１名は体調不良で長期間ベッド上で過ごしたケースであり、もう１名は生活や体調に変化がないにもかかわらず見えにくい場所（踵）に発生しており、観察不足と発生させないという目標が達成出来なかった。

また、研修も５月の１回のみだったので、来年度は委員を通じて要望のある研修を実施したい。

●行事企画・広報委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員、総務職員

【開催実績】

計１２回（毎月第１月曜日）

【本年度の取り組み】

・４月お花見ドライブ（ユニット毎）
・５月母父の日イベント（ユニット毎）ラーメンの日（全体）
・６月カフェ（全体）
・７月天ざるの日（全体）
・８月夏祭り（全体）
・９月敬老会（全体）
・１０月芋煮会・さんま（全体）
・１１月厨房イベント（全体）
・１２月クリスマス会（ユニット毎）
・１月餅つき・餅花作成（全体）
・２月節分（全体）バレンタイン（ユニット毎）
・３月ひな祭り（ユニット毎）

【振り返り】

毎年恒例のイベントに加え、新たな取り組みとしてカフェの開催や厨房イベント（カツオの解体ショー・中華バイキング）を行い、利用者様・入居者様に加え職員も楽しむことができた。一方で、新たな取り組みのため、段取りが手探りでバタついてしまった部分もあった。また、イベントが毎月あり準備等に余裕がないとの意見も聞かれた。

次年度からは上記の反省を活かし、全体でのイベント数を減らしユニットごとのイベントを増やしたい。

●防災対策委員会

【構成メンバー】

施設長、介護支援専門員、生活相談員、看護師、管理栄養士、介護職員、総務職員

【開催実績】

４、７、１０、１月（第３火曜日）

【本年度の取り組み】

・消防・防災訓練の実施

自主避難訓練　９月実施

自主マニュアル訓練　３月実施

【振り返り】

消防訓練は２回実施したが、連絡の不備により消防立ち合いでの訓練ができなかったため、次年度は確実に実施できるよう努めたい。代わりにマニュアル訓練を実施し、これまで避難訓練に参加できていなかった職員にも避難方法の周知ができた。エレベーター停止時の2階からの避難方法については、介助者ベルトなどのサンプルを試せていないため、今後進めるとともに、自作スロープ等、他施設のアイデアも参考にしながら検討したい。

また、LINE アプリを使った緊急連絡方法をいち早く確立し、緊急時に備えるとともに、次年度は BCP（業務継続計画）についての訓練計画を立案し実施する予定である。

ヘルパーステーション東雲（訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業）事業実績報告

本年度も基本的感染対策を徹底した上でサービス提供を行った。利用者宅を訪問する際は、訪問時の体調確認、事前検温実施の依頼、マスク着用と定期的な換気を実施し、サービス提供にあたってご協力いただいた。

令和５年９月上旬から下旬にかけて、併設するサービス付き高齢者向け住宅において新型コロナウイルスの集団感染が発生したが、職員への罹患は確認されず必要なサービスを途切れることなく提供した。しかし、利用者の身体状態が悪化し長期入院となられる方や、在宅での生活が困難となり施設入所される方が増え、新規対応を行う一方で支援終了となる利用者の方が増加し、増収へつなげることはできなかった。

常勤者の月間サービス提供時間を明確化するとともに、パート職員配置の見直しやサービス提供可能日時を随時発信し、新規利用者を獲得し黒字化を目指す。引き続き、安心安全に自立した生活を営むことができるように、多様なニーズへの迅速な対応について関係機関と連携を図り、サービスの提案提供を行う。

令和５年度利用実績

訪問介護（サービス付き高齢者向け住宅東雲入居者）

	要介護１	2	3	4	5	合計
４月	13名	４名	２名	３名	０名	25名
５月	12名	５名	２名	３名	０名	23名
６月	12名	６名	１名	２名	０名	21名
７月	10名	４名	１名	３名	０名	18名
８月	10名	５名	２名	２名	０名	19名
９月	９名	４名	３名	３名	０名	19名
１０月	９名	４名	３名	３名	０名	16名
１１月	10名	４名	４名	４名	０名	22名
１２月	10名	４名	１名	４名	０名	19名
１月	11名	４名	１名	３名	０名	18名
２月	10名	５名	０名	２名	０名	17名
３月	９名	５名	１名	２名	０名	17名

年間延人数　234名　月平均　19.5名

訪問介護（在宅利用者）　平均介護度

	要介護１	2	3	4	5	合計
４月	１名	１名	０名	０名	１名	３名
５月	１名	１名	０名	０名	１名	３名
６月	１名	０名	０名	１名	１名	３名
７月	１名	１名	０名	０名	０名	２名
８月	１名	１名	０名	０名	０名	２名
９月	１名	０名	１名	０名	０名	２名
１０月	１名	１名	２名	０名	０名	４名
１１月	１名	１名	２名	０名	０名	４名
１２月	１名	０名	３名	０名	０名	４名
１月	１名	０名	２名	０名	０名	３名
２月	１名	０名	２名	０名	０名	３名
３月	１名	１名	２名	０名	０名	４名

年間延人数　37名　月平均　3.08名

介護予防・日常生活支援総合事業（サービス付き高齢者向け住宅東雲入居者）

	事業対象者	要支援１	要支援２	合計
４月	０名	１名	４名	５名
５月	０名	０名	４名	４名
６月	０名	１名	４名	５名
７月	０名	２名	４名	６名
８月	０名	０名	４名	４名
９月	０名	０名	４名	４名
１０月	０名	１名	４名	５名
１１月	０名	０名	３名	３名
１２月	０名	１名	３名	４名
１月	０名	１名	３名	４名
２月	０名	３名	２名	５名
３月	０名	３名	２名	５名

年間延人数　54名　月平均　4.5名

介護予防・日常生活支援総合事業（在宅利用者）

	事業対象者	要支援１	要支援２	合計
４月	２名	４名	２名	８名
５月	２名	４名	２名	８名
６月	２名	４名	２名	８名
７月	２名	３名	２名	７名
８月	１名	３名	２名	６名
９月	１名	３名	２名	６名
１０月	１名	２名	２名	５名
１１月	２名	２名	２名	６名
１２月	２名	２名	２名	６名
１月	２名	２名	２名	６名
２月	２名	２名	２名	６名
３月	２名	３名	３名	８名

年間延人数　80名　月平均　6.67名

令和５年度サービス提供割合

訪問介護

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
身体介護	680回	85.5%	687回	84.5%	652回	85.3%	542回	86.3%	623回	88.7%	623回	88.7%
身体生活	28回	3.5%	33回	4.1%	22回	2.9%	19回	3.0%	21回	3.0%	21回	3.0%
生活援助	87回	10.9%	93回	11.4%	90回	11.8%	67回	10.7%	58回	8.3%	58回	8.3%
乗降介助	0回	0%	0回	0%	0回	0%	0回	0%	0回	0%	0回	0%
合　計	795回		813回		764回		628回		692回		702回	

	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
身体介護	738回	88.7%	729回	88.6%	582回	86.1%	431回	82.7%	421回	83.4%	433回	83.1%
身体生活	26回	3.1%	22回	2.7%	21回	3.1%	18回	3.5%	16回	3.2%	18回	3.5%
生活援助	68回	8.2%	72回	8.7%	73回	10.8%	72回	13.8%	68回	13.5%	70回	13.4%
乗降介助	0回	0%	0回	0%	0回	0%	0回	0%	0回	0%	0回	0%
合　計	832回		823回		676回		521回		505回		521回	

年間訪問回数　8,272回　内訳）身体介護　7,114回　86.0%、身体生活　267回　3.2%
生活援助　891回　11.0%、乗降介助　0回　0%

平均訪問回数　689.3回　内訳）身体介護　592.8回、身体生活　22.3回
生活援助　74.3回、乗降介助　0回

日常生活支援総合事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合事業	83回	78回	90回	85回	62回	60回	69回	52回	61回	67回	59回	73回

年間訪問回数　839回　　平均訪問回数　69.9回

内部研修報告

開催日	研修内容
4/11	法令順守
5/16	緊急時対応
6/13	接遇・マナー
7/11	訪問介護とは
8/15	高齢者虐待
9/12	医学的知識と応急処置（AED講習）
10/17	プライバシー保護
11/14	事故発生又は再発防止
12/12	感染症対策
1/9	認知症
2/13	業務継続計画（BCP）
3/12	振り返り、実技指導「オムツ交換」

ホームヘルパーステーション東雲（障害者自立支援・居宅介護）　事業実績報告

令和元年 11 月 2 日以降、稼働実績が無い。事業所としては、ヘルパーステーション東雲と兼任業務となるため、対応可能な曜日・時間帯を相談支援事業所へ案内し利用者の獲得に努める。

令和5年度利用実績　無し

障害者自立支援　※令和元年11月2日を最後にサービス利用終了。

ケアプランセンター東雲 事業実績報告

本年度も感染対策を講じながら、市町村の主催する連絡会、各職能団体が主催する勉強会、事例検討会、研修へ積極的に参加した。

近隣の包括支援センターや医療機関からの新規対応を積極的に行うも、本年度は支援終了となる件数も多く、令和５年度の平均担当件数は91.25件（1人当たり30.42件）となった。

特定事業所として中重度者や支援困難ケースへの積極的な対応や、専門性の高い人材の確保、質の高いケアマネジメントを実施し、地域における居宅介護支援事業のケアマネジメントの質の向上に資することを目的とされているため、今後も職員一人一人が自己研鑽し、地域とつながり、選ばれる事業所となれることを目指すと共に黒字化を目指す。

令和５年度　利用者実績　目標担当件数　105件（1人辺り35件）　　平均担当件数　　91.25件

	要介護1	2	3	4	5	合計	要支援	担当件数
4月	42件	15件	11件	10件	8件	86件	16件	94.0件
5月	44件	13件	11件	9件	7件	84件	18件	90.0件
6月	42件	13件	12件	10件	7件	84件	18件	93.0件
7月	40件	11件	13件	9件	8件	81件	19件	90.5件
8月	37件	16件	14件	8件	8件	83件	19件	92.5件
9月	37件	16件	12件	6件	8件	79件	19件	88.5件
10月	33件	17件	14件	9件	8件	81件	19件	90.5件
11月	33件	18件	13件	9件	7件	80件	19件	89.5件
12月	36件	21件	16件	5件	7件	85件	18件	94.0件
1月	31件	24件	13件	6件	6件	80件	18件	89.0件
2月	33件	24件	13件	7件	6件	83件	18件	92.0件
3月	32件	23件	12件	6件	8件	81件	21件	91.5件

（要支援認定者は2名で1件とする）

会議・研修等受講報告

受講月日	研修名	実施主体
4/25	在宅医療について	宮城県ケアマネジャー協会
5/18	塩釜市介護予防のための地域ケア個別会議	塩釜市
9/5	高齢者虐待防止について	宮城県国民健康保険団体連合会
9/22	認知症普及後援会「認知症の人の想い、知っていますか？」	塩釜市
10/3	高齢者権利擁護推進研修	宮城福祉オンブズネット「エール」
10/26	生活保護について理解を深める	塩釜市北部２地区地域包括支援センター
12/14	難病支援勉強会	宮城県塩釜保健所
1/20	ケアマネジャーの役割	塩釜市社会福祉協議会
2/9	多職種連携「意思決定支援」	宮城県社会福祉士会
2/16	北部地区地域づくり普及啓発のための合同勉強会	塩釜市
2/22	障がい福祉サービスについて	塩釜市
3/6	身体拘束及び虐待防止	塩釜市社会福祉協議会
3/7	介護支援専門員と歯科専門職との連携に向けて	塩釜市北部２地区地域包括支援センター
3/20	適切なケアマネジメント手法	日本総合研究所
3/21	塩釜市介護予防のための地域ケア会議（阿部　事例発表）	塩釜市

令和５年度居宅介護支援事業所巡回相談（実施主体：塩釜市）　2/19

塩釜市北部１地区地域包括支援センター主催　フレンドリーカフェ

5/10、6/14、10/11

塩釜市北部１地区地域包括支援センター主催　地域支え合い意見交換会

5/19、7/21、9/22、11/24、1/19、3/22

塩釜市北部１地区地域包括支援センダー主催　介護支援専門員勉強会

4/18、6/20、8/22、10/17、12/19、2/20

七ヶ浜町地域包括支援センター主催　ケアマネジャー等連絡会

5/19、7/21、9/29、11/17、1/19、3/15

多賀城市主催　ケアマネジャー連絡会議

5/19、1/11

他法人と協同での事例を使った勉強会・研修（萩の里介護支援センター、アークケア清楽苑）

6/8、10/11、2/14

毎月１日　事業所内ミーティング

毎週木曜日　事業所内情報伝達会議

サービス付き高齢者向け住宅東雲　事業実績報告

令和５年５月８日から新型コロナウイルス感染症が５類へと引き下げられるも、感染症対策を実施しながらの運営となった。円安、ウクライナ有事の影響から、光熱費の更なる高騰、必要経費の増大、夏の異常気象、９月上旬から下旬にかけての新型コロナウイルス集団感染の発生があり、入退去が著しく一時期は稼働率が激減した。

光熱費の高騰に対しては、令和６年度から利用料金改定を実施する。既存の入居者・家族等への説明を行うとともに、空室対策として対面での営業活動の再開、来訪者の制限撤廃を行った。速やかな入退去を実施し稼働率の向上、黒字化を目指すとともに、引き続き入居される方がプライバシー保護のもと自由で快適な個別生活が送ることができるよう対応する。

令和５年度の利用実績

全30室　目標稼働率93.0%　平均稼働率　89.7%

月	稼働居室数	稼働率	月	稼働居室数	稼働率
４月	28/30室	93.3%	１０月	26/30室	86.7%
５月	29/30室	96.7%	１１月	27/30室	90.0%
６月	29/30室	96.7%	１２月	27/30室	90.0%
７月	29/30室	93.9%	１月	27/30室	90.0%
８月	24/30室	80.0%	２月	25/30室	83.3%
９月	25/30室	83.3%	３月	27/30室	90.0%

行事開催状況

・4/21、11/19　消防訓練実施

ケアプランセンター抱優 事業実績報告

安心して住み続けることができる地域社会にはさまざまな社会資源が必要となる。介護が必要であっても、認知症になっても、住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できることを共に考える居宅介護支援事業所を目指し活動してきた。

今年度も、職員体制１名での事業展開となった。一人事業所のため、特別養護老人ホーム抱優館八乙女の職員の協力の受け、利用者との連絡や関係各機関との連絡対応を行った。その中で、研修や関係各機関の会議等にも参加し、ネットワークづくりに取り組んだ。

今年度の実績は以下のとおりである。地域包括支援センターや病院とさまざまな機会を通じて、連携を深める取組みの結果、新規の利用者の紹介をコンスタントに受けることができた。ただ、施設入居やお亡くなりになるなど終結したケースも多く見られた。今後も、関係各機関との連携を深め、新規利用者の紹介を受けていくと共に、できるだけ長く安心して在宅で生活が継続できるケアマネジメントを実践していく。

	要介護１	2	3	4	5	合計	要支援	担当	新規	終結・入院
４月	18	12	7	4	1	42	1	43	4	0
５月	18	12	6	5	1	42	1	43	1	1
６月	17	11	5	3	1	37	2	39	0	4
７月	16	11	6	3	1	37	3	40	2	3
８月	14	13	6	3	1	37	4	41	0	0
９月	15	13	5	2	2	37	5	42	2	2
１０月	14	11	5	4	2	36	3	39	1	4
１１月	13	12	5	5	1	36	3	39	0	0
１２月	14	13	4	4	1	36	3	39	1	1
１月	14	12	6	4	1	37	3	40	1	1
２月	13	10	6	4	2	35	4	39	1	2
３月	14	10	5	4	2	35	4	39	1	1

会議・研修等受講報告

受講月日	研修名	実施主体
4/3	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
4/17	ネットワーク会議	八乙女地域包括支援センター
4/21	ケアマネサロン	八乙女地域包括支援センター
6/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
6/16	圏域ケア会議	八乙女地域包括支援センター
7/3	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
7/27	介護保険について	すていじ仙台保護者会
8/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
8/17	キャラバンメイト養成研修	仙台市介護研修室
8/22	仙台市介護支援専門員研修	仙台市
9/1	認知症サポーター養成講座	豊齢学園
10/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
10/14	県ケアマネジャー協会研修	宮城県ケアマネジャー協会
10/23	ネットワーク会議	八乙女地域包括支援センター
11/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
11/7	介護支援専門員研修会	仙台市
11/10	県ケアマネジャー協会研修	宮城県ケアマネジャー協会
11/12	るるる健康まつり	八乙女地域包括支援センター
11/17	高次脳機能障害研修	ウェルポート仙台
12/3	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
12/19	ネットワーク会議	八乙女地域包括支援センター
1/16	他法人合同事例検討会	仙台徳洲会介護センター他
1/13	八乙女・南光台地区圏域ケア会議	八乙女地域包括支援センター
1/26	介護医療連携推進会議	桜ヶ丘定期巡回ステーション
2/9	介護支援専門員研修	仙台市
2/21	ネットワーク会議	八乙女地域包括支援センター

やまとみらい八乙女保育園 事業実績報告

令和５年度は定員19名のところ０歳児１名、１歳児７名、２歳児7名、計15名のスタートだった。０歳児は８月に３名が入園し例年より早く枠は埋まった。しかし「幼稚園は満３歳から保育料無料」という理由で、９月、10月に幼稚園に移る２歳児２名が退園し、また11月には１歳児１名が家庭の事情で転園、と出入りの激しい１年だった。12月に１歳児１名、１月に２歳児１名が入園したが、２歳児の枠は埋まらず厳しい現状となった。今後は次年度を見越した１歳児枠１名増を検討し安定した運営を目指す。

コロナ感染症が５類となり、昨年まで控えていた大きな行事を開催することができた。また、保護者間の交流が深まり、保育園の役割を十分に果たすことができた。特に八乙女小学校体育館を借りての運動会は、久しぶりに活気ある様子を伺うことができ、保護者からも好評だった。

食べ物による窒息事故の報道を受けて、改めて食事前後の見守りや食材の見直し、与え方などを確認し、さらに、食べる・食べさせるについての研修を全職員で受講し学び直した。今後も安全に安心して過ごせる保育環境を整えると共に、職員の資質向上を目指していく。

【やまとみらい八乙女保育園利用実績】

定員19名

月	入園児数（一時預かり利用数）			退園児数			合計
	０歳児	１歳児	２歳児	０歳児	１歳児	２歳児	
４月	１	７	７	０	０	０	15名
５月	１	７	７	０	０	０	15名
６月	１	７	７	０	０	０	15名
７月	２	７	７(１)	０	０	０	16名(１名)
８月	４	７	７	０	０	０	18名
９月	４	７	６(２)	０	０	１	17名(２名)
10月	４	７	５(２)	０	０	１	16名(２名)
11月	４	６	５(２)	０	１	０	15名(２名)
12月	４	７	５(２)	０	０	０	16名(２名)
１月	４	７	６(１)	０	０	０	16名(１名)
２月	４	７	６(１)	０	０	０	16名(１名)
３月	４	７	６(１)	０	０	０	16名(１名)

【各種会議開催状況】

保育園全体の連携や各職種連携のため次の会議を開催し、業務の改善を図った。

会議名	議題	開催日	構成メンバー
職員会議	保育・個別状況報告、行事反省、次月予定、課題提起・検討、情報・意識の共有	4/11 5/8 6/8 7/7 8/8 9/6 10/11 11/2 12/5 1/10 2/14 3/8	園長、保育士、保育従事者、栄養士、調理員
クラス会議	週の活動計画 月の活動計画 課題提起、検討	週計画…毎週金曜日 月の計画…毎月１回	保育士
給食会議	現状報告、情報連絡、課題提起・検討	4/17 5/24 6/23 7/20 10/30 11/15 12/12 1/12 2/19 3/11	園長、保育士、栄養士、調理員

【各種外部会議・行政主催研修・各種セミナー等参加状況】

保育のスキルアップや情報交換、小規模保育制度の理解を深めるため、以下の研修等に参加した。

（❁印の研修はオンラインで全員受講）

開催日	名称	参加者	主催者
5/16	保育所施設長研修	園長	仙台市子供未来局
6/20	保育所施設長研修	園長	宮城県保育協議会
7/4	みやぎ保育カフェ	保育士	宮城県保育協議会
7/22	乳児保育研修❁	保育士	こどものとも社
9/20	保育所施設長研修	園長	仙台市子供未来局
9/28	特別支援保育研修	保育士	仙台市子供未来局
10/30	乳児の食と健康研修❁	保育士	食べ物文化研究会
11/2	食物アレルギー研修	保育士	仙台市子供未来局

年間行事

月	日	内容
4	20	進級・入園お祝い会
	25	園児健康診断
	28	避難訓練及び消火訓練
5	15	避難訓練及び消火訓練
	23	防犯訓練
	30	クラス懇談会・つき組
6	6	クラス懇談会・そら組
	14	避難訓練及び消火訓練
7	7	七夕会
	15	避難訓練及び消火訓練
8	3	夏祭り
	23	避難訓練及び消火訓練
9	8	避難訓練及び消火訓練
	30	親子ふれあい運動会
10	12	芋煮会
	17	避難訓練及び消火訓練
	24	園児健康診断
	31	ハロウィン
11	2	防犯訓練
	25	避難訓練及び消火訓練
12	8	避難訓練及び消火訓練
	23	クリスマス会
1	24	避難訓練
	30	クラス懇談会・ほし組
2	2	豆まき会
	7	クラス懇談会・つき組
	9	クラス懇談会・そら組
	20	避難訓練及び消火訓練
3	1	ひな祭り会
	16	卒園式（そら組）
	22	避難訓練及び消火訓練
	28	そら組お楽しみ会

やまとみらい南光台東保育園　事業実績報告

令和５年度は、定員60名に対し、0歳児７名、１歳児12名、2歳児12名、3歳児12名、4歳児13名、5歳児10名の計66名でスタートし、その後数名の入退園があり、年度末は在園児数65名で運営してきた。

園児定着を目標として、行事や特徴ある保育を行い、「卒園まで預けたい保育園」を目指している。保護者のアンケート調査等を基に始めた「カリキュラムの導入」も、園児の生き生きとした姿を大切にカリキュラム内容の見直しを行いながらより良い形で定着している。保護者の方々にも行事や様々な面で高評価を頂き、令和６年度の入園に対し、在園児の兄弟姉妹全員が第一希望で入園された。このことが、さらに移行が無くなることにつながると思われる。令和５年度の移行児は、兄弟園への１名と有名幼稚園への2名だった。その他、これまでは無かったコロナ明けでの転勤を含む引っ越しが多く、6名あった。

これまでの課題だったホームページが完成し、新規入園希望者に反映されると期待している。また、今年度も研修会はリモートを中心に開催され、全職員が最低１回は研修を受け、主に共有したい内容を職員会議で伝え合い、保育の質の向上を目指した。また、今年度もスーパーバイズ事業に参加し、専門技術向上支援事業の先生を招き、実際に園内で保育を撮影した内容をもとに、スーパーバイザーから的確なアドバイスを受け保育の見直しと改善を行った。次年度も継続して行う予定となっている。「皆で作り上げる保育園」「全員で全園児をみる保育園」を今後も目指していく。

安心で安全な保育園を目指し、消防署や警察署の協力を得て避難訓練と防犯訓練を行い、より緊張感のある訓練を実施できた。これまでコロナのため訓練への参加を断られることもあったが、今後も続けていきたい。

令和５年度は、2件の通院を要する怪我があった。うち１件は雪を手で払ったときに肘が外れ通院。もう１件は床にかがんで歯をぶつけ「心配なしの安心を得るため」の通院であった。年々怪我の件数が減っており、今後も園児の運動能力の向上・見守り・環境整備に取り組み、安心で安全な保育に努めていく。

【やまとみらい南光台東保育園利用実績】定員60名（合計人数は各月１日付人数）

月	入園児数						退園児（人）	合計
	0歳児	１歳児	2歳児	3歳児	４歳児	5歳児		
４月	7	12	12	12	13	10	0	66名
５月	7	12	12	12	13	10	0	66名
６月	7	12	12	12	12	10	1	65名
７月	7	12	12	12	12	10	0	65名
８月	8	12	12	12	12	10	0	66名
９月	8	12	12	12	12	10	1(1)	66名
10月	8	12	12	12	12	10	0	66名
11月	8	12	12	11	12	9	3(1)	64名
12月	8	12	12	11	12	9	0	64名
１月	8	12	12	11	12	9	0	64名
２月	7	12	12	11	12	9	1	63名
３月	7	12	12	11	12	9	0	63名

※3/16付0歳児2名入園により65名となる。

【各種会議開催状況】

※保育園全体の連携や各職種連携のため、次の会議を開催し業務の改善を図った。

会議名	議題	開催日	構成メンバー
職員会議	保育現状報告 意識の共有 行事計画・反省 課題提起・検討	4/18 、5/22 、6/20 ， 7/21，8/28，25，9/25， 10/25，11/27，12/22， 1/29，2/21、3/4，22	園長、主任、保育士、栄養士
リーダー会議	部分会からの検討 情報連絡 課題提起・検討	※行事検討など随時	園長、主任、 リーダー
部分会	クラスからの提案 行事について 現状報告	4/3，5/2、6/2、11/6， 3/16	リーダー、 各クラスの代表
以上児・未満児ミーティング	現状把握・共有 課題提起・検討 指導計画・反省 個別指導計画・反省 行事計画・反省	※行事等について随時開催	各クラス担任
給食会議	現状報告・食育計画 情報連絡 課題提起・検討	4/18 、5/15 、6/22 、 7/19 ，8/22 ，9/22 ， 10/18，11/21，12/19， 1/19，2/16，3/21	園長、主任、栄養士、リーダー 各クラスの代表

【各種外部会議・行政主催研修参加状況】

※保育のスキルアップや情報交換、保育制度の理解を深めるため、以下の研修等に参加

研修日	名称	参加者	主催者
5/26	保育所長研修会	園長	仙台市保育所連合会
9/4	保育所長研修会	園長	仙台市保育所連合会
6/15	主任保育士等研修会	主任保育士	仙台市保育所連合会
8/10、8/31 10/17	キャリアアップ研修 幼児教育の意義・環境 等	保育士	宮城県社会福祉協議会
各々	キャリアアップ研修	保育士	保育のデザイン研究所
10/25	主任保育士等研修会	主任保育士	仙台市保育所連合会
7/24	中堅保育士等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
6/20	初任保育士等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
6/21	初任保育士等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
9/21	栄養士研修会	栄養士	仙台市保育所連合会
6/23	乳児保育士研修会	保育士	仙台市保育所連合会
7/4	乳児保育士研修会	保育士	仙台市保育所連合会
7/6	特別支援保育研修会	保育士	仙台市保育所連合会
9/5	給食担当者研修会	栄養士	仙台市保育所連合会
9/12	アーチル・運営支援課 合同基礎研修会	保育士	こども若者局
11/1	中堅保育士研修会	保育士	仙台市立保育協議会
園内研修	AED 研修 エピペン研修 わらべ歌研修 子供主体の保育について	全保育士	園にて講師依頼
全３回	スーパーバイズ研修 カンファレンス	保育士	仙台市子供未来局

【年間行事状況】

３歳以上児・・・・・ 毎月１回クッキング保育実施

4・5歳児・・・・・　毎月１回体操教室

0・1・2・3歳児・・・毎月１回音楽リズム教室

全クラス・・・・・・　毎月１回英語教室

<令和5年度 年間行事>

月	日	内容
4	11	避難訓練&消火訓練
	1ヶ月	進級・入園おめでとうの会（フォトコーナー）
	5月10日	園児健康診断 14時30分～
	21	子どもの日・誕生会
5	16	避難訓練&消火訓練
	19	★4・5歳児親子遠足
	31	防犯訓練
	25	誕生会
	30	★懇談会 ひつじ・こあら
	26	★懇談会 うさぎ
6	13	避難訓練&消火訓練
	6	★懇談会 きりん
	16	★懇談会 りす・らいおん
	22	誕生会
7	7	七夕誕生会
	20	避難訓練&消火訓練
	29	★夏祭り
	6	歯科健診
8	8	避難訓練&消火訓練
	24	誕生会
	10月31日	避難訓練&消火訓練（消防署協力）
9	22	敬老の日（抱優館南光台東へプレゼントを届ける）
	29	誕生会
	26	避難訓練&消火訓練
10	14	★運動会
	26	誕生会
	31	ハロウィン
	4	園児健康診断
	9	避難訓練&消火訓練
11	12月11日	防犯訓練（警察署協力）
	24	誕生会
	22	避難訓練&消火訓練
	26	誕生会
12	22	クリスマス会
	18	誕生会
	12	避難訓練&消火訓練
1	18	★保育参観・懇談会 ひつじ・こあら

	23	★保育参観･懇談会 りす･らいおん
	25	★保育参観･懇談会 きりん
	31	★保育参観･懇談会 うさぎ
	18	誕生会
	11	避難訓練&消火訓練
2	2	豆まき会
	13	避難訓練&消火訓練
	29	誕生会
3	1	ひな祭り誕生会
	27	避難訓練&消火訓練
	16	★卒園式
	21	お別れ会

★印は、保護者参加の行事

※コロナなどにより日程変更となった行事は、予定していた月に実際行った日付を記載

オルタハ乙女【自立訓練(生活訓練)・就労移行支援・就労定着支援】 事業実績報告書

令和５年度は事業内容の見直しを行い、８月より自立訓練(生活訓練)と就労移行支援の多機能型として新たに事業を開始した。新規事業の開始に伴い訓練プログラムの見直しを行い、関係機関等の連携、HP の更新、SNS の発信、機関誌の発行、訪問などに継続して取り組み、上半期の利用実績は低迷していたが、下半期に入り上昇している。当初目標としていた事業収入には届かなかったが、事業活動収支は単年黒字化にすることができた。今後も黒字化を継続し、目標通りの事業収入を達成できるよう目指していく。

就職活動支援については、昨年度より利用者数の減少があり就職実績としては減少している。令和 6 年度は令和 5 年度よりも就職者数の増加、就労定着の継続を保ち、終了者と新規利用者のサイクルを安定して運営できるよう目指して取組む。

今後も自立訓練(生活訓練)と就労移行支援における支援内容の連携とプログラムの充実化、法人内連携等も進め、多様化したニーズへの対応、利用される方や地域に必要とされるサービスや事業内容について検討し、安定した事業運営を目指して業務に努めていく。

[令和５年度利用実績]

就労移行　定員 20 名(R6.8 月より多機能型に変更のため定員 10 名)

目標：1 日平均利用 12.6 名(8 月より 10 名) / 実績：1 日平均利用 9.6 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
開所日	22	22	24	22	23	22	23	22	21	20	21	21
契約者	11	10	10	11	11	10	9	9	11	12	13	14
就労アセス			1		10	21	12	16	3	1		
延べ利用者	190	182	210	193	198	214	205	193	209	217	245	260
1 日平均利用	8.6	8.3	8.8	8.8	8.6	9.7	8.9	8.8	10.0	10.9	11.7	12.4
見学者	3	1	4	2	2	1	2	2	5	1	3	4
体験者	1	2	1			1	2	2		1	1	1
新規契約	1			1		1			2	1	1	1
就職者	1					1	1					1
就労定着者(6ヶ月以上)							1					1
利用終了者					2	1						2
内(自立訓練)						1						1
(他支援機関)					1							
同行支援	25	12	4	20	9	7	15	23	19	8	12	15
支援会議		2	2	2	1	4		3		1	2	3

自立訓練(生活訓練)　定員10名(R6.8月より多機能型で事業開始)

目標：1日平均利用2名　/　実績：1日平均利用1.4名

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	23	22	23	22	21	20	21	21
契約者	1	1	2	2	2	2	1	2
延べ利用者	7	20	42	41	40	40	18	25
1日平均利用	0.3	0.9	1.8	1.9	1.9	2.0	0.9	1.2
見学者	1						1	
体験者	1						1	
新規契約	1		1					1
利用終了者						1		
内(就労移行)						1		
同行支援	1		2		3	1		
支援会議								1

就労定着　定員20名

目標：契約利用者月13名　/　実績：契約利用者月15.7名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者	16	16	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16
定着支援	78	90	77	74	65	76	74	116	72	85	85	82
内(会社訪問)	2	7	9	6	3	5	7	9	2	7	6	7
(面談、行事)	16	19	18	19	22	22	18	29	15	18	15	15
(連絡対応等)	57	62	48	47	44	49	75	75	54	60	63	58
(支援会議)	3	2	2	2	2		1	3	1		1	2
新規契約							1					
利用終了者		1										2
内(利用満了)		1										
(離職)												2

［各種会議開催状況］

外部会議・研修

日 時	研 修 内 容	主　催
5/16	実務者ネットワーク会議	泉区自立支援協議会
5/28	第31回宮城県・仙台市障害者スポーツ大会	宮城県・仙台市障害者スポーツ協会
6/3	障害者施設における虐待防止について考える研修会	宮城県社会福祉協会
6/6	新型コロナウイルス感染症5類移行後の取組・課題	宮城県保健福祉障害福祉課
6/7	令和5年度精神保健福祉基礎講座(初任者研修前期)	仙台市精神保健福祉総合センター
6/15	第19回仙精連大運動会実行委員会①	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
7/5	令和5年「感謝の集い」(アドポス)	株式会社アオバヤ
7/6	第19回仙精連大運動会実行委員会②	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
7/18	実務者ネットワーク会議	泉区自立支援協議会
8/7~8/9	就業基礎研修	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 宮城支部 宮城障害者職業センター
8/9	精神保健福祉スキルアップ研修(限界支援の在り方)	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
8/22	第19回仙精連大運動会実行委員会③	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
9/7~9/8	第19回仙精連大運動会準備・開催	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
9/17~9/18	認知行動療法の基礎知識と導入・実践研修会	みらい福祉
10/31	精神保健福祉スキルアップ(発達障害のある方への支援)	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
11/15	令和5年度ジョブコーチ支援事業推進協議会	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 宮城支部 宮城障害者職業センター
11/22	相談支援事業所等連絡会議・実務者ネットワーク会議	泉区自立支援協議会
11/18~11/19 12/10~12/13	令和 5 年度第二回 JC-NET ジョブコーチ養成研修(第 65 期)	NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク
11/3.11/23 12/2	令和 5 年度ピア相談員(ピアサポーター)雇用促進事業実習希望者向け研修会	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
12/5	障害者就業セミナー	障害者就業・生活支援センターわ～く、富谷市・黒川地域自立支援協議会
12/13	就労事業所向けSNS活用オンラインセミナー	NPO法人WELS
1/12	障害者福祉関係施設等職員研修会	宮城県障害者福祉センター
1/16	実務者ネットワーク会議	泉区自立支援協議会
1/22	令和5年度精神保健福祉基礎講座(初任者研修後期)	仙台市精神保健福祉総合センター
1/24	令和5年度 第3回就労移行支援事業所等連絡協議会	仙台市就労支援センター
1/30	令和5年度 仙台市発達相談支援センター発達障害成人期講座(就労編)	仙台市南部・北部発達相談支援センター
2/2	令和5年度仙台市再犯防止推進セミナー	仙台市再犯防止推進ネットワーク会議
2/16	職場適応援助者養成研修	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 宮城支部 宮城障害者職業センター
2/22	見えない・見えにくい方への支援を学ぶ研修会	NPO法人アイサポート仙台
2/26	令和6年度報酬改定オンラインセミナー	NPO 法人全国就労移行支援事業所連絡

		協議会
3/1	第3回障害者雇用促進セミナー	仙台市障害企画課
3/19	実務者ネットワーク会議	泉区自立支援協議会

所内研修

	研修内容	出席者
5/24	安全運転管理研修	職員全員
6/21	避難訓練(全体参加)	
7/19	感染予防、体調衛生研修	
8/23	個人情報保護研修	
10/18	避難訓練(全体参加/AED講習)	
1/17	虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会	

内部会議

会議名	議　題	開催日	構成メンバー
ケース共有	・訓練状況、利用者の情報共有および対応の検討 ・業務連絡、翌日の予定の確認	毎日 17:00～17:30	全職員
職員会議	・カリキュラム調整、運営、役割分担、日程調整 ・支援方法、情報、意識の摺合せ	第1（水） 15:00～16:00	全職員
	・個別支援計画、ケース検討	最終（水） 13:30～15:30	

ワインフォレスト七ツ森　事業実績報告

事業開始から5年が経過した。今期は事業運営上の大きな変更として、令和5年6月1日に事業所を黒川郡大和町吉田から仙台市泉区実沢に移転し、B型の定員を10名から20名に拡大した。また、令和6年3月をもって就労継続支援A型事業を廃止した。今後は就労継続支援B型単独の事業所として運営を行っていく。事業環境の変化・ご利用者様のニーズの変化に伴う事業内容の変更となったが、廃止に際してA型利用者様についてはスムーズに他事業所へのサービス移行や一般就労への移行をすることができた。

また、令和5年度は利用者様の目標であった一般就労をする年として位置づけ、A型4名B型5名の方が希望に沿ってそれぞれの進路に進んでいる。

令和5年度は新規にご契約頂いた利用者様が8名、うち6名が定着し現在も利用を継続している。3月末時点でB型のご利用者様は16名の方が在籍しており、4月から新たに5名の方が利用を開始する。また、当事業所の取組みに興味を持っていただいた支援学校・相談支援事業所から多数の実習生の受入を行っている。

就労支援事業では自主事業として薪や炭の製造／販売などの作業をご利用者様に提供してきた。また、法人内施設での清掃作業・施設整備作業、他医療法人での受託清掃作業、実沢事業所内では日中活動の場という利用者様個々のニーズに沿った所内での軽作業を開始し、利用者様の障害特性に応じて作業の選択肢の拡大に繋げることができたと考えている。

今後ご利用者様の登録数や委託業務が増える一方で、職員の一人一人のスキルやご利用者様それぞれの特性に合わせた支援体制をしっかりと整えることが一層必要となる。全ての利用者様に対して職員全員が支援計画の目標を共有し、支援スキルや知識の向上を図っていく。

[サービスの状況（令和6年3月31日現在）] 定員30名（A型：10名、B型20名）

（1）サービス区分毎登録利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
就労継続支援A型	8人	8人	9人	9人	8人	8人	8人	8人	8人	8人	8人	7人
就労継続支援B型	18人	19人	19人	19人	19人	20人	20人	20人	20人	20人	19人	16人
合計	26人	27人	28人	28人	27人	28人	28人	28人	28人	28人	27人	23人

(2) サービス区分毎地区別登録者数

	大和町	大郷町	富谷市	仙台市	合計
就労継続支援Ａ型	1人	1人	2人	3人	7人
就労継続支援Ｂ型	3人	2人	4人	7人	16人
合計	4人	3人	6人	10人	23人

(3) サービス区分毎年齢別登録者数

	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳~	合計
就労継続支援Ａ型	0人	4人	2人	0人	1人	7人
就労継続支援Ｂ型	0人	8人	3人	3人	2人	16人
合計	0人	12人	5人	3人	3人	23人

(4) サービス区分毎利用者稼働状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
最大利用日数/月		22日	23日	22日	23日	23日	22日	23日	22日	20日	20日	21日	23日
100%稼働時延べ利用者数	Ａ型	220人	230人	220人	230人	230人	220人	230人	220人	200人	200人	210人	230人
	Ｂ型	220人	230人	440人	460人	460人	440人	460人	440人	400人	400人	420人	460人
	事業所合計	440人	460人	660人	690人	690人	660人	690人	660人	600人	600人	630人	690人
就労継続支援Ａ型	延べ利用者数	141人	125人	162人	147人	136人	129人	136人	129人	139人	123人	127人	116人
就労継続支援Ｂ型	延べ利用者数	261人	260人	276人	267人	270人	284人	299人	323人	302人	274人	258人	215人
事業所合計	延べ利用者数	402人	385人	438人	414人	406人	413人	435人	452人	441人	397人	385人	331人

[各種会議開催状況]

内部会議

会議名	議　題	開催日	構成メンバー
運営会議	収支報告、当月の予定、事業計画に対する進捗の報告、施設運営の情報連絡	毎月１回	理事長、本部職員、フォレスト職員
ケース共有	・支援状況、利用者の情報共有および対応の検討 ・業務連絡、翌週の予定の確認	毎月１回	全職員
職員会議	・当月（翌月）の予定の確認 ・各種業務の調整、運営、役割分担等 ・ケース検討（随時） ・工賃の確認と検討（3ヶ月に１回） ・支援方法、情報、意識の摺合せ	毎月１回	全職員

事業報告の付属明細書

令和５年度の事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

社会福祉法人やまとみらい福祉会
理事長　早坂　了悦